

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

# Documentation

No.32

ドキュメンテーション



ノートPCの返却に集まった卒業生の皆さん

## 17期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます

4年前を振り返ってみると、まず世界的に流行したコロナの影響を非常に大きく受けた皆さんには、入学当初からオンライン授業を余儀なくされました。入学当初は、期待していた学生生活ではなく不安の多い日々であったと思います。授業が手探りのオンラインになっただけでなく、サークル活動や学校行事も停止。1年生の前期では、全員が集まれたのは大雨の中での健康診断だけでした。2年生からは一部対面での講義もはじまりましたが制限は続き、大学に来たものの教室がわからない人も多かったと思います。このような類を見ない変化にさらされながらも粘り強くここまで到達できたこと、改めて心よりお祝い致します。

さて、皆さんがこれから出でていく社会は、かつてない規模とスピードで変わり続けています。生成型AIがスマートフォンに入っている方も多いのではないでしょうか。新しい技術や概念、生活様式や労働環境が導入されています。思えばこの4年間は、ウクライナやパレスチナで戦争が起り、その影響は日本にも及びました。差別問題や多様性がかつてないほど注目を浴び、また日本の下降傾向や若者を取り巻く環境の厳しさが顕著となつた期間でもありました。

世界規模で進む大きな変化の中で社会に出る皆さんは、ときに自分の力、夢や努力などが小さく見えてしまうかも知れません。しかし、大切なことが見えにくくなっている今こそ、自分を失わないことが必要です。まずは自分を大事に思い、自らの心の声を聴いて下さい。それは

他者を正しく認識する最初のステップであり、この世界に正しく接続することです。

目もくらむような多くの選択肢や情報から自分で選び取って進んでいったレポートや発表、卒業論文執筆を思い出して下さい。図書館という人類の知性を保存し支え続け、さらに人々の学びやつながりに貢献する場所への深い知識の蓄積、電子メディアやデータベースの仕組みを知ったときの驚きや身につけた有用な技術、古典籍から得られた様々な歴史への気づき、過去の人々の息づかい。そういうものを日々の積み重ねで体得したことが、複雑な社会の中で搖るぎない支えになります。どうか、誇りに思って下さい。

みなさんが善い方に動けば、社会は善くなります。無関心やあきらめは、悪い方向への力になります。大きな変化を前に、勇気を持って、自分を大切に、決して目を背けず一歩ずつ前進して下さい。鶴見大学で学び、卒業まで到達した皆さんの中には、社会を動かす力が身についています。

困難に負けず、この4年間を共に歩めたことを教員一同誇りに思います。これから的人生は長く、たくさんの出会いや別れが待っているでしょう。みなさんの鶴見大学ドキュメンテーション学科で過ごした時間が人生の支えとなり糧となることを心より願っています。

ドキュメンテーション学科 万波 寿子

## ▣ 角田裕之研究室

- 市川 理紗 図書館利用率向上を目的とした学校教育における読書推進活動の提案  
—図書館利用率と読書量や読書傾向との関連性から見る図書館が利用者に与える影響への考察—
- 柿崎 柚 AI 技術を活用した図書館業務についての考察
- 小西 優大 生成 AI とのチャットを重ねるヴァーチャルレンスサービスの実験と考察
- 小原 一水 神奈川県立図書館及び神奈川県立川崎図書館における独自の取り組みの分析と  
他の県立図書館の比較研究 —地域貢献の観点から（平成 30 年度から令和 4 年度）—
- 出口晶紀人 小説・文芸におけるジャンルを構成する要素の探求 —ブックデザインに表れる文字と色が持つ影響—
- 中塚 菜月 入力時の予測変換における画像の呼び出し方式
- 中村淳之介 図書館における効果的な「企画展示」の研究 —貸出数の増加を目指して—
- 中山 透 プロ野球が身近にある街 ~球団・住民・図書館の連携に着目して~
- 新妻 海優 ブックスタートが及ぼす児童の読書傾向に関する研究 —親の意識から見て—
- 林 智哉 Web パスファインダーの比較研究 —レイアウトの違いによって見えてくる特徴と利点—
- 吉田 万鈴 図書館や書店における印象的なポップの共通点 —配色、フォント、キャッチコピー、形状の観点からの考察—

## ▣ 小南理恵研究室

- 江澤裕一朗 視覚障害者の公共図書館利用：実態と課題
- 尾崎 知哉 大学生による電子メディア上の資料読み取りの特徴：アンケート調査から
- 佐藤 匠 公共図書館における電子書籍サービスの利用促進に向けての提案：若者を対象に
- 佐保田若葉 LGBTQ を対象とした公共図書館のサービスについて
- 杉山 大陽 公共図書館利用減少の改善策：若者を対象に
- 滝澤 侃太 図書館流通センターと日本の公共図書館との関係について
- 中林 暖 日本における公共貸与権の現状
- 永森 真優 日本の公共図書館におけるレンタルサービスの歴史と課題
- 西井 涼 公共図書館における障害者サービスの現状と課題
- 西村 美優 「図書館の自由に関する宣言」の現代的意義：資料収集・資料提供の観点から
- 森谷百合恵 公共図書館における子育て支援サービスについて

## ▣ 大矢一志研究室

- 遠藤 楓太 プラレールを使った Scratch 版小学生向けプログラミング教材の開発
- 高橋 唯 フットサルリーグの活性化を目指す web サイトの作成 —ファンやスポンサーをまきこむ運営支援—
- 水引 一葉 テーブルゲーム TRPG の進行役ゲームマスターの役割を担う AI の研究 —機械学習向けコーパスの設計—

## ▣ 元木章博研究室

- 有川 貴史 視覚障害者・支援者向け視覚障害者誘導用ブロック敷設状況の調査 ~「横浜市、川崎市」の場合~
- 石井 桃子 学校司書のニーズを想定した企画展ユニットの開発と評価
- 遠藤 夏加 視覚障害教育分野におけるニーズに応える触察模型の製作と評価・改善 ~福岡県立福岡高等視覚特別支援学校でのケース~
- 小島千咲江 博物館における触れる展示・イベントの調査と図書館による触察模型を使った展示・イベントの提案
- 中島 理佐 地方公共団体の Web サイトにおける閲覧補助機能の現状調査
- 藤川 美月 3D プリンタを活用した視覚障害者の個人的ニーズに応える情報提供の実践
- 増田 成剛 生分解フィラメントを用いたルアーの製作と評価
- 三日市莉理 視覚障害者の潜在ニーズを推測した 3D 模型の製作と提供
- 向 紗奈子 点字図書館における触察模型に関する意識の調査

### 河西由美子研究室

- 小濃 彩花 幼児期の読み聞かせ過程に関する研究  
 金本 陽奈 ダンスにおける学びの過程に関する研究  
 川口 美南 児童サービスの歴史に関する研究  
 熊澤 歩美 「エルマーのぼうけん」に関する研究  
 小島瑛麗奈 「第三の場」と図書館に関する研究  
 山氏 愛 ブックスタートに見る赤ちゃんと絵本に関する研究  
 米山 遼史 ゼロ年代ライトノベルの歴史と定義に関する一考察

### 万波寿子研究室

- 飯島 綾 京都書肆武村市兵衛について  
 桑原 淳 和歌食物本草について  
 小林 晓梨 ちりめん本の研究 一絵師を中心に  
 下川原綾音 前川茂右衛門の出版活動  
 白橋 勇人 近世版本の角書きと内容の関係について  
 新美 凪彩 江戸書肆山青堂について

### 田辺良則研究室

- 鵜野 泰輔 動画投稿サービスにおける注目度を分析するウェブアプリケーションの開発  
 大谷 美来 タイピング技術向上を支援する練習ソフトウェアの開発  
 斎藤諒太郎 プロ野球の戦績データの分布について  
 佐々木竜太 日本における総人口と在留外国人数の動向についての相関分析  
 堤 耀世 回帰分析についての調査と実験  
 山崎 希祥 平均気温の変化に関する統計的分析

### 伊倉史人研究室

- 伊藤 友菜 藤原定家の使用字母について  
 大久保寿花 明治初期出版物の奥付について 一皇紀の使用を中心に  
 草野 奈美 江戸初期版本における刊行年の表記について  
 佐藤 臣 明治期土佐日記の研究  
 杉山 結菜 『詞花和歌集』の伝本研究  
 玉山 竜久 書肆金寿堂考  
 西脇 神楽 近世般若心経注釈書について —現代解釈との相違—  
 平賀 秋也 御伽草子 物くさ太郎の研究  
 藤岡 要 近世紀聞の版種について  
 水間帆乃美 三条西実隆と公条の筆跡の比較研究  
 我妻 佳明 鶴寿百人一首とその周辺

2023 年度

# 卒業論文題目





# 2023年度 研究室紹介

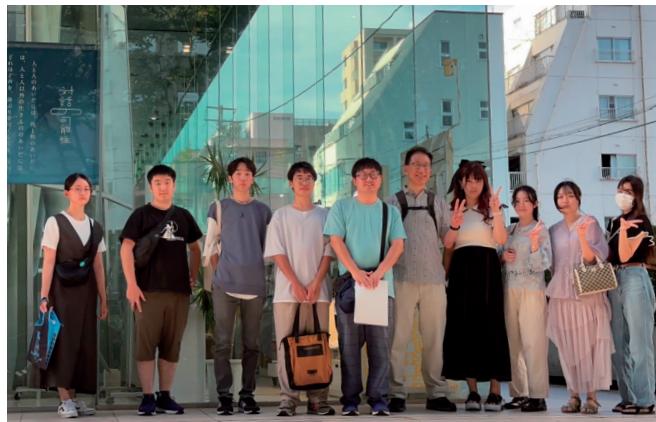


## 田辺良則研究室

田辺研究室では、情報学や統計学で学んだ知識を生かしてシステム開発や調査・研究を行っています。毎週、各自の進捗状況の発表と質疑応答を行うことで、課題を明確にしていきます。また、他学生と情報共有をして知識を広げたり、深めたりすることができます。さらに、先生は個別に相談も乗ってくださるため、問題を早く解決して研究を着実に進めることができます。発表や質疑応答は大変でしたが、要点を絞って的確に伝える力と当事者意識をもって発表を聞く力が身に着きました。そして、目標を達成するために必要な作業に優先順位をつけ、計画的に取り組んでいくことの重要さを学びました。 [大谷美来]

## 角田裕之研究室

角田ゼミでは図書館や本に関するを中心に行なっていました。その中でも今年度は地域貢献やパスファインダー、ブックスタート、読書推進活動、AI技術、生成AI、プロ野球、企画展示、ブックデザイン、ポップといった一人ひとりが自分の興味のあるテーマで研究を進めました。演習では進捗状況の報告や意見交換をしました。中間発表会はゼミ合宿で行い、仲間ともに楽しく有意義な時間を過ごすことができました。意見を交換し合うことで、自分では気付けなかった新しい視点を得ることができとても充実した研究が行なえたと感じております。上手く研究が進まず行き詰ったときもありましたが、角田先生はいつも親身に相談にのってください同じゼミの仲間からのアドバイスもあり1年間楽しく研究をすることが出来ました。角田ゼミでの活動を通じて楽しく学ぶことの大切さと様々な人の意見交換の大切さを学ぶことができました。 [吉田万鈴]



## 元木章博研究室

元木研究室の特徴は「連帯感」です。卒業論文は自分だけの力で取り組むものではありません。もちろん、テーマや内容を決め、執筆するのは自分自身ですが、その過程で先生とミーティングを何度も行ったり、授業でゼミの仲間と相談したり、春夏2回ある合宿でOB・OGの先輩方から意見を貰ったりしながら進めていきます。今年度は合宿を一度も行うことができませんでしたが、来年度ではまた行うことができる信じています。夏合宿は基本全員参加ですが、春合宿は自由参加なのでこういうものが苦手な方でも安心です。合宿では仲間や先輩方と交流をしたり、卒業論文について意見を貰うことができます。自分の考えだけではなく、他の人の考えを聞くことで卒業論文をより良いものにしていくことが出来ます。このようにゼミの仲間や先輩方等のさまざまな視点からアドバイスをいただきながら卒業論文に取り組めるのが元木研究室です。 [遠藤夏加]





### 小南理恵研究室

小南研究室では図書館学に関するテーマを主として、公共図書館の障害者サービス、電子書籍サービス、レファレンスサービス、LGBTQに対する取り組みや図書館の自由に関する宣言などを研究しました。各自の調査方法については、本学学生を対象とした質問紙調査、公共図書館・関連団体へのインタビュー調査、現地調査、文献調査などがありました。今年度の卒業論文演習は、前期は週に1回対面での進捗報告を行い、後期はメールでの進捗報告と、テーマの似ている2、3人の対面少人数ゼミを交互に行いました。9月にはゼミ合宿を実施し、研究の中間発表やディスカッション、観光を通してゼミ生同士の交流を深めました。[永森真優]



### 河西由美子研究室

河西研究室では、主に図書館学分野における子どもの情報行動・読書活動、図書館の情報サービス、学校図書館などのテーマを中心とした様々な研究に取り組むことができます。ゼミでは週に一度、研究の進捗状況を発表します。進捗状況を発表することで、自分の研究内容をまとめることができ、先生やゼミ生の様々な視点からの意見をいただきながら研究に取り組むことができます。発表することが苦手な方も、毎回の発表が練習となり、自身の情報伝達能力を高めることができます。私はこの研究室に所属して、計画的に物事を進める大切さや、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることの大切さなどを学ぶことができました。[小島瑛麗奈]



### 伊倉史人研究室

私たちのゼミでは、刊記の表記の調査、『和歌食物本草』の版種研究、『詞花和歌集』の本文研究、藤原定家や三條西実隆の筆跡の研究等を行いました。今年度は万波先生のゼミと合同で行いました。二人の先生から違う視点のアドバイスをいただくことや、ゼミ間での意見交換を通して良い刺激を得られました。また、コロナが落ち着いてきたこともあり、資料館や博物館での資料調査を行うこともできました。卒業論文を書く際にテーマで悩むことがあります、まず先行研究を読み、興味を持つことが重要です。また、そこで失敗をしても、書誌学には様々なジャンルがあるため一つにこだわらないことも重要です。 [草野奈美]

### 大矢一志研究室

卒業論文の題目が確定しても、手は動かしているものの目標が不明確でしばらくは進捗が見られませんでした。夏に入り、計画を全て見直しました。具体的には、作りたいもの、やりたいけれどもできること、やりたいけれどもできないこと、そしてやりたくないけれども必要なことなどに分類し、計画を立て直しました。このアプローチにより、卒業論文の本文作成時も、今すぐにできる部分と調査が必要な部分などを分け、計画を練り直すことができました。卒業論文を通して、タスクを細分化して計画をたてるスキルを身につけることができました。今後卒業論文に取り組む方に対しては、タスクを細分化し、計画的に進めることをお勧めします。[高橋唯]

### 万波寿子研究室

私たちのゼミでは、武村市兵衛やちりめん本などの江戸時代の本屋や近代の版本の調査や分析を行いました。毎週伊倉ゼミと共同で発表という形で進捗報告を行いました。ひたすら国書データベースの画像を見比べたり、参考文献を読んだりで、就活と両立することが大変でしたが、やりきることができました。自分で近世の版本を購入した人もいました。実物の古典籍を活用した調査や、データベースを用いた綿密な比較研究などを行うことで、研究テーマをより深く追求することができたと思います。伊倉先生のゼミと合同で進めることで多彩な視点から意見をもらうことができ、より広い視野を持てたのもよかったです。 [飯島綾]



# 2022年度 新入生の声

新入生見学会 神奈川県立歴史博物館：三溪園 2023.4.15



新入生見学会：雨の三溪園にて

1年  
星 真雪

## 見学会：実物の存在感と雨に濡れた美しい木々

神奈川県立歴史博物館では様々な実物の展示がありました。今まででは資料集や図録で見る程度だった浮世絵や道具類を実際に見て、その質感や色味を確認することが出来て嬉しかったです。現代の展示も私たちにとっては自分が生まれる前のことであり、そんな家具や家電を目の当たりにして、機能や素材感、サイズに当時と今との違いを実感しました。

三溪園では生憎の雨でしたが、普段見ることの無い景色は味があり、特に曇天の中で引き立つ花の色が一段と印象的でした。どの花も太陽の下で光を浴びる姿が一番と言われ、もちろんその姿も綺麗ですが、雨の霖に光を映す姿も乙だと思います。日常の中での雨はジメジメとして憂鬱ですが、この日の雨は濡れた木々がより引き立つ雨で、こんな雨も悪くないと感じました。

## ❖ フォトコンテストを開催 ❖

三溪園で学生たちが撮影した写真の中から、最優秀作品を紹介します。

### 「静謐」

持田 紗葵

フォトコンテストで賞をいただき嬉しかったです。今回初めてインスタントカメラに触れたのですが、最近のものには加工機能がついていて驚きました。様々な加工の種類があり、その表現の1つにモノクロがあります。このモノクロが雨の三溪園の雰囲気に合うと思い、今回選びました。雨の中の建物は薄暗く、モノクロだと明暗がはっきりとして、背中の影はより黒に、外の光はより白になりました。その対比がきれいな作品になったと思います。白い光の中にある黒の背中の異質さがとても好きな一枚です。とてもカッコいい被写体になっていただいたM先生、ありがとうございます。



## 「空に向かって」

<sup>1年</sup>  
鈴木 彩音

見学会の日はあいにくの悪天候だったので、憂鬱な気持ちで当日を迎えました。雨で視界が悪い中三渓園の中を散策していると、この小さな花を見つけました。私の目には、ほかの植物と比べてひときわ輝いて映ったのです。

この花の一番綺麗な瞬間を見つけたいと思い、私はカメラを構えました。カメラを覗き込みながら花の魅力が一番伝わる角度を試行錯誤します。ふと、「花の目線に立って撮ってみたらどうだろうか」と思いつきました。試しに花の根元の方にカメラを置いて撮影してみました。すると、まるで雨の中でも必死に空を見上げているような一枚が撮れたのです。この写真につけたタイトルは今後の大学生活の中で成長できるようにという願いを込めて付けました。



## 「三渓園」

<sup>1年</sup>  
渡邊 一葉

初めて訪れた三渓園はあいにくの雨で残念に感じていました。でも、三渓園に入つてすぐ雨が滴る藤の花がとても綺麗でした。足場の悪い中、友人たちと「ここはなんていう建物だろう。」や、「あっちに行ったら何があるかな。」と話しながら探検気分で庭園のなかを巡り、写真を撮ることができて楽しかったです。特に印象に残った建物は、旧燈明寺三重塔です。大きな池に船が一隻浮かびその上に鳥が一羽佇んでおり、奥には木々に隠れながら頭を見せている旧燈明寺三重塔。その風景は現代とはかけ離れたものに感じました。普段触れることがない、日本庭園をフォトコンテストという形で楽しむことができていい経験になったと思います。



## 参禅会

### 参非日常を味わう

<sup>1年</sup>  
三枝 沙南

参禅会に参加をするのは初めてだったので、当初は神聖で厳肅な雰囲気で行い、お坊さんも厳しい人たちはかりなのではなかと思っていました。しかし実際は、座禅や開会式ではしんとした静かな環境でしたが、お坊さんは気さくな方が多く、印象がガラリと変わりました。

座禅を組むことも初めてだったので、上手くできず、片足しか組むことができませんでした。もう片方の足を持ち上げようすると、全然持ち上がりずびくともせずびっくりしました。開会式のあいだは正座をしていたのですが、普段は全く正座をしないのでとても久しぶりの正座であり、しかも長い時間正座をしていたので足がものすごくしびれました。

家や学校で床に座るときは体育座りや女の子座りをしてしまいます。けれど、よく母にその座り方だと骨盤がゆがむと言わっていました。座禅や正座は姿勢の矯正にもなり健康に良い座り方だと思うので、これから意識してそれらの座り方をしていきたいです。

お寺の中にはこりひとつもなさそうなピカピカの廊下があったのですが、その廊下は100年近くも毎日雑巾がけをしていると聞いてとても驚きました。そのほかにも電子機器は使用してはいけない、一畳のたたみで寝る、などお坊さんの生活は大変そうだなと感じました。精進料理は名前や存在を知っていたけれど、初めて口にしました。味が薄いものばかりだと思っていたけれど、なかには濃い味付けのものもあり、美味しくいただけました。動物性たんぱく質を使用しない料理なので物足りないのではと思っていたましたが、お麩の揚げ物や小鉢の品数が多く、ボリューム満点でした。食事の最後にたくあんとお茶で茶碗を洗うという作業に驚きました。

今回の参禅会では普段味わうことのない貴重な体験をすることができ、とても面白かったです。今後もこのような機会があつた際にはまた参加をしたいと思います。



# 授業紹介 [プレゼンテーション演習]

2年次専門科目「プレゼンテーション演習」では、効果的なプレゼンテーションの方法について、個人での発表とグループでの発表を織り交ぜながら学んでいます。受講生のみなさんに、グループ別プレゼンテーションの感想と、授業全体を振り返つての感想を執筆いただきました。

(小南理恵)

## II グループ別プレゼンテーションを終えて

### ■ 情報共有と役割分担が大切

粕谷 志音  
2年

今回のグループ別プレゼンテーションでは、今までやってきた個人でのプレゼンテーションにやっと慣れてきたところだったので、とても難しく感じました。

まず、グループのメンバーと議論をしながら意見をまとめしていくのに時間がかかり、大変でした。調べてきたことも自分一人が理解していればよいのではなく、情報共有をしてみんなが同じ方向で準備を進めていかなければ良いプレゼンをすることはできません。自分のペースで自由に進められる個別のプレゼンとは大きく違い、難しかったです。

しかし、3人いることで役割を分担できることはとても良い点でした。私は、発表の原稿を作成しましたが、それはパワーポイントを作るのが苦手だからです。自分の得意なことを担当して、苦手なところは別の人任せられることができ、個別のプレゼンテーションとは違ってとてもありがたく感じました。

本番の発表では、うまく連携が取れていないところもあったけれど、個人でやるよりもパワポの質も良く、いいプレゼンができたなど感じました。

### ■ 意見とアイディアを出し合う

中林 暖  
4年

個人での発表よりもグループで発表準備を行う方が、多くの意見やアイディアが見つかる点で大きなメリットがあると感じた。今回は、資料作成や発表といった作業をメンバーがそれぞれ担当するという仕方ではなく、各作業をそれぞれが分担して行った。そのため、資料はフォントやデザインの統一感を意識し、発表内容は辻褄が合うように繋げていった。

発表の反省点としては、質疑の回答が不十分だったことである。これは質疑で想定される内容をより多く抑えておくべきであった。今回はグループワークという形で作業したので、自分の調べた内容に対する疑問点を他のメンバーに尋ねるといったことで解決できた問題だと感じた。

今回、グループでのプレゼンテーションを通して、個人とは違った良さ、難しさがわかった。個人の発表と違い、このグループでの発表の機会は今後ないというのが惜しまれる。



グループ別プレゼンテーションの様子

## II グループ別プレゼンテーションを終えて

### 何を伝えるかが大事

佐保田 若菜<sup>4年</sup>

授業で学ぶまでの「プレゼン」に対する考え方があり、人に伝える事だけがプレゼンではないという事を理解する事が出来ました。

授業の中では、先生から様々なプレゼンのコツや方法を学ぶ事が出来ました。しかしそれだけでなく、発表や質疑応答から学生同士の中で意見や考え方があり、そこから新たに学ぶ事もありました。

実際、私は第7回の授業で発表を行った時に、質疑応答の中で、「一番伝えたい事は何ですか」と質問をされた事で、「私の発表は制限時間の中で色々詰め込みすぎているのだ」と気が付くことが出来ました。それまでは字数や時間に意識が寄り、内容は「時間内に入れられるものは入れてしまった方が内容は充実する」と考えていた事もあり、見えていなかった部分に気が付くことが出来ました。

プレゼンを行う事は、今後社会に出る迄の間も、出た後も必要になる力であると私は考えている為、この授業から得られた経験を活かして乗り切りたいと思います。

### プレゼンテーションは怖くない

小林 晃<sup>3年</sup>

私がプレゼンテーション演習で学んだことは、プレゼンテーションは思ったより怖くないということです。

元々私は人前で何かを発表したりするのは苦手で、内容を否定されるかもしれない、質問に答えられないかもしれないといった不安を感じていたのですが、この講義で内容を否定されることも、質問をされることもある程度は対策が出来ることを学び、それらの不安をなくすことが出来ました。

むしろ質問がくることは良いことであるというのを知り、今まででは質疑応答の時間に誰も質問してこないでほしいと思っていたのを変えることが出来ました。

また、パワーポイントでのスライドの構成や、文字のフォントや背景などのデザインに関する事も非常に勉強になりました。



## 勉強会 [田辺ゼミセミナー]

### 志を同じくする仲間との貴重な時間

坂本 溪登<sup>3年</sup>

ソフトウェアセミナーは、毎週1回、水曜の授業終了後に開かれている勉強会です。プログラミングと資格取得 (IT パスポート・基本情報技術者) がテーマです。その週に自分で勉強してきたことを発表するほか、その場で時間を決めてプログラミングの問題や資格試験の過去問を解き、解答を発表したり、先生にコメントをもらったりします。

あくまで勉強会ですので、授業よりも主体的に学習をする姿勢が求められますが、この勉強会に参加することで、プログラミング学習や資格取得の勉強が効果的にできます。学習において、志を同じくする人との交流は貴重だと私は考えています。この勉強会の参加者は、みな学びたいという気持ちでいるので、独学よりも学習の効果が上がるからです。

他にも、早い段階でプログラミングに触れる事ができるという意義もあります。本気でプログラミングを学びたい人も、プログラミングについて知りたいという人も、一度参加してみる価値のある勉強会だと思います。



# 教育実習を終えて

## ■ 教育実習で得られたこと

4年  
石井 桃子

2週間、高校で情報科の教育実習を行いました。実習校は、中学校からの付属校で中学生も高校生も同じ校舎で授業を受けていました。私の母校は中学からの付属校ではなかったため、実習が始まった当初、自分が学んできた環境との違いに少々戸惑いもありました。しかし、授業を見学する際は、中学生から高校生のクラスまで幅広く見学することができ、非常に貴重な経験となりました。

また、授業は実習初日から担当させていただき、早くから自分の改善すべき点を知ることができて、大きな力となりました。最初のうちは緊張で声も出ず、授業を行うことに精一杯になり、一方的な授業になってしましました。声量については、マイクに頼ることもできたものの、担当の先生が「マイクのない学校もあるから」と、使わずに頑張るチャンスをくださいました。仮にマイクを使っていても、はっきりと話せていなければ声は通らないと思うため、自分のためになる提案をしてもらったと感じています。

私自身は、同じ内容の授業を繰り返し行っていくことで、授業の改善を図することができますが、生徒たちは一度習った内容のものが改善されたとしても、もう一度受けられることができません。1回限りの授業をさせてもらっているのだと認識したこと、より一層気が引き締まり、各クラスの状況に応じて実りある授業ができるよう、クラスの観察にも力を入れました。同時に、他の先生方の授業見学を通して、問い合わせによって生徒が授業に参加できる空気を作りあげていっていることを感じ取りました。学びを活かしながらも自分の授業ができるように、一方的に話すのみの授業から、適宜グループ活動や指名をするなど、工夫を取り入れていきました。顔を上げてくれる生徒が増えて、最初に行った時よりも生徒が自主的に参加できる授業にできたのではないかと思っています。

至らない点が多く、不安とともに始まったなかでも2週間を過ごせたのは、先生方や生徒の皆さん、一緒に実習期間を過ごした他の実習生といった、関わった方々の支えが非常に大きいです。心より感謝を申し上げます。

## ■ 私の教育実習

4年  
遠藤 夏加

私は母校に3週間教育実習に行きました。1週目は見学として様々な教科を見学し、2、3週間目に授業実習を行いました。授業実習では早口になりすぎたり、PCの操作の説明を忘れてしまったり、話の順序がおかしくなってしまって生徒に伝わらない授業になってしまったりと、挙げればきりがないほどの注意点をご指摘して頂きました。

その中でも特に印象に残っているのは授業の準備を入念に行う必要があるということです。授業の中で生徒がPCを使用したり、モニタやプロジェクターで教員用PC共有したり、授業スライドを作成してそれに沿って授業を展開していきます。そのため、授業を成功させられるかどうかは、どれだけ授業の準備を行ったかに掛かっているのです。生徒がしっかり学習できる授業を行う第一歩は、準備を入念に行うことにあるのだと実感しました。

実習最後の週の水曜日、研究授業を行わせて頂きました。何をテーマにするかはすんなり決まったのですが、どのように授業を展開していくか、またどのような準備をする必要があるのかが重要だとので指導を頂きました。

実は研究授業を行う前、最後の確認として2日前の月曜日にも同じ内容の授業を行ったのですが、結果は目も当てられないほど悲惨なものでした。動画を生徒に見せる際、音声が出なかったり、伝言ゲームを行ったのですが、そのルールが曖昧になってしまい、うまくいかなかったり、堂々と授業を行うことができませんでした。ずっと挙動不審になってしまい、今思い出しても恥ずかしいほどです。

これらはすべて準備不足が招いた結果。研究授業ではこの反省点を生かすため、機材の準備やプリントの改良、ルールの明文化を行って事前準備を行いました。その結果、研究授業自体はギリギリ成功といったものでした。音声の問題やルールの問題は解決しうまく行うことができましたが、授業の内容に不備があったり、プリントが間違っていたり、結局堂々と行えなかったりと、たくさんの注意点をご指摘して頂きました。

これらの注意点もしっかり授業の準備を行っていたら出なかったものです。まだまだ準備不足という面が目立ちました。ですが、悪い点ばかりではなく、良かった点もご指摘して頂けました。声が大きく後ろまでしっかりと聞こえていた、指示が明確であった、伝言ゲームが非常に盛り上がったということなどをご指摘していただけて、非常に嬉しかったです。

母校の高等学校で情報の教育実習を行うことができて、私はたいへん幸運であったと感じています。3週間という短い間でしたが貴重な体験をさせて頂けました。心の底から感謝しています。

# 二館巡礼

wisdom repositories

No.21

## 【ゼメリング高架博物館 [オーストリア]】

Hochstrassen Museum Semmering, Austria

オーストリアの首都ウィーンと第二の都市グラーツの間を走る、世界遺産でもあるゼメリング鉄道の最高標高にあたる停車駅ゼメリングは、前後をトンネルに挟まれた谷間にある山岳鉄道のいち駅舎なのだけれど、国際特急も停車する不思議な駅である。そして駅から標高1000mのゼメリングの街までは高低差100mを超える約1kmの山道を登らなければならない。そんなゼメリングの街には、道端にまるで道標のようにベンチと博物館が置かれている。歩いて楽しんで下さいという誘いなのだろう。そして実際、多くの人が道を歩き、楽しんでいる。

博物館の新しい姿として、地域そのもので歴史や文化を語る形態がある。例えば歴史的遺構の側にそれを解説する案内があり、それを読みながら地域を巡り、当時の世界を思い描くまたは追体験するというものである。古

地図と現代地図を併記したマップを片手に案内板を巡り、知識を深めてゆく。ある意味体験型の展示とも言える。ところが、この手の地域型博物館と言えるものがあまり多くない。理由は、現実にある街並みそのものの所為である。昔は神社がありましたという案内板の隣にネオンが眩しい飲食ビルが建っていたら、とても当時を思い描くような気持ちにはなれないだろう。現在が過去を消し去るのは当たり前なのだけれど、これが地域型博物館の誕生を難しくしている。

ところがゼメリングでは、街並み自体が世界遺産と地域型博物館としての性格を持つように努めている。建物は意図的に古風または地域文化色の強いものでまとめられ、山岳の眺望もできるだけ自然を守りながら開発されている。ある意味、意図的に開発や発展を止めている。ただこの不便さが不快かといえばそうではなく、街の落ち着きを生み、とても過ごしやすく心地よい。

鉄道しかないのに世界遺産となったゼメリングにいると、鎌倉が世界遺産の事前選定から落ち続けてきた理由がよく分かる。鎌倉には街そのものに遺産化の意思がないのだ。観光地は世界遺産にも地域型博物館にもなれないのだろう。京都も富士山もゼメリングから何かを学んで欲しいと強く思った。

(大矢一志)



アクセス：ゼメリングの中心部にある観光案内所で地図をもらい歩いてゆく。周回コースが楽しく、2時間から3時間で中心部に戻れる。但し、途中トレッキングコースを通り、携帯電話の電波が届かない場所があることから、スマホ上で地図を事前にダウンロードしておいたほうが良い。



# 学科・学会活動報告

## II 角田裕之教授最終講義報告

2024年2月17日土曜日13時から、鶴見大学図書館地下ホールにて、文学部ドキュメンテーション学科教授である角田裕之先生の最終講義が開講されました。卒業生や現役生、学内外の教育・研究者の皆さんのが、ご参集くださいました。

角田先生がお勤めになった12年間で多くの学生を育て、次のステップへ導かれました。そのような教育活動に加えて、輝かしい数々の研究を積み上げてらっしゃいました。これらの教育と研究の両輪のみに留まらず、学科主任や副学長、学部長を歴任し、本学の運営活動にも幅広く関わってくださいました。

新年度からも、新しい道で活動なさるそうです。今後のご活躍を祈念しております。

(有志の会：元木章博)



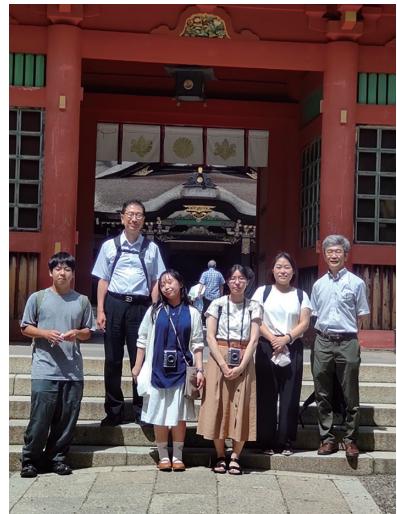
最終講義に臨まれる角田裕之教授

## II 鶴見大学 POP コンテスト 2023 ドキュメンテーション学科が受賞！



和書部門・金賞を受賞した草野さんの作品

お気に入りの本のPOPを作成するコンテスト。洋書、和書、絵本の部門別に金賞、銀賞、銅賞、紀伊国屋書店賞が贈られます。今年度は和書部門でドキュメンテーション学科の草野奈美さん（4年）が金賞を、絵本部門で下川原綾音（4年）が金賞を、東葭明音（3年）が佳作を受賞しました。受賞作品は鶴見大学図書館と紀伊国屋書店（横浜店）で展示されました。



夏の見学会：香取神宮にて

## II 夏の見学会：香取神宮・伊能忠敬記念館

## 冬の見学会：東京国立博物館

夏の見学会（2023年8月30日）は希望者を募って千葉県の香取神宮と伊能忠敬記念館へ訪れました。残暑厳しい中、伊能忠敬に負けじとよく歩きました。冬の見学会（2024年2月6日）は1年生全員で東京国立博物館を参観しました。鶴見大学の文学部の学生は東京国立博物館のキャンパスメンバーズに加入しています。見学会の時に限らず、いつでも無料で見学することができます。何度も足を運んでください！

- 「ドキュメンテーション」第32号をお届けします。17期生の卒業記念号です。卒業生の皆さん、おめでとうございます。
- 12年にわたりドキュメンテーション学科を支えてこられた角田裕之教授が退任されます。これからもかわらずご支援くださいますようお願いいたします。先生の今後のご活躍を学科教職員、学生一同お祈り申し上げます。

ドキュメンテーション 第32号 令和6（2024）年3月14日（木）

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会 〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 ☎ 045(581)1001 発行責任者：元木章博

学科ホームページ：<http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/> 学科ブログ：<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/docu/>